所沢市立美原中学校

学校だより No 6

令和３年度　第６号
８月　３０日　（月）

学　校　教　育　目　標
・進んで学ぶ生徒（知）
・心豊かな生徒（徳）
・たくましい生徒（体）

日常の会話から日常の楽しさへ

２学期始業式　式辞より

いよいよ二学期がはじまります。みんな元気に登校できているでしょうか。マスコミからのニュースでは、このコロナの蔓延で夏休みの延長が報道されたりしています。【途中略】学校では万全の準備をし、今日から２学期を始めましょう。

２学期の開始にあたり、今日は、「日常の楽しさは、会話から！」というテーマに触れながら、２学期をスタートしたいと思います。

紙面のみ

この２学期は、昨年同様、コロナの流行のため現在、大変厳しい状況です。３年生の修学旅行は７月の末に終わり、緊急事態宣言からぎりぎりはずれ、どうにか実施できたのは、本当によかったと思います。しかし、これからの体育祭、美原祭（合唱祭）は、また多くの制限が出されています。現在、先生方も多くのことを工夫・調整しながら、話し合いを進めています。各行事を少しでも実施し、皆さんに行事で多くの人と触れ合い、楽しさや協力することの尊さ厳しさという体験を経て、さらに成長してほしいと思っています。

行事は、エネルギシュシュで、エキサイティングで若さを爆発させる楽しさを持っているからです。本日の始業式後では、避難訓練を順延し、いざというときのリモートによる授業等の準備のため、予定を変更しています。朝から昇降口での健康観察も再び実施しています。何も気にせず、当たり前に過ごせる日が早く来ればいいなとつくづく思います。しかし、このような制限の中でも皆さんは、元気に過ごしているのをよく見ます。どんな時、皆が楽しそうにしているのかなとあれこれと思い浮かべながら考えていた時、多くの制約のあった１学期の中で、楽しそうにしているのは、やはり友達との会話の場面だったように印象があります。休み時間、ソーシャルディスタンスと言われながらも、気の合った仲間と気兼ねなく話す様子は、私には、楽しそうな青春の１ページに見えました。現在会話といえば、通信という意味だけの会話であれば様々な方法がありますが、感情やその時のメンバーの構成、いわゆるすべてを網羅したその時の空気感までもリアルな状況でなくては、わりません。みんなで味わう、うれしい気持ちを共有したり、時には言い争ったり、自分のことばだけで、うまく伝えられなかったりすることもありますが、校長として垣間見える皆さんのその姿は、ほとんどが若者の許される範囲であり、微笑ましく感じてしまいます。会話を含め人と触れ合うことは、楽しいことの一つなのだと思います。会話の楽しみ方には、その他にも色々あります。人々の会話

紙面のみ

の様子を環境として感じているだけで、聞いているわけでもなく学校の生活の一部として楽しんでいる人もいるのです。一言でいえばこれが学校の日常なのでしょう。

２学期は、話し合い学習など人とのコミュニケーションをうまく活用しクラスとしてこの限られた日常を、大切に生かし、楽しんでください。そして、更に日常のなにげない会話や何気ない人との交わりに多くの人が学校の日常の楽しさを味わうことのできる２学期であれば本来学校に通う大きな意味が達成できることになります。皆さんがそんな日常を一日でも多く感じられるのを願っています。

紙面のみ

最後に先日、ネガティブ・ケイパリティ（答えの出ない事態に耐える力）という言葉をある本を読んで知りました。本日、当たり前の日常である「会話」の話をしたのは、答えの出ないこんな時だからこそ、当たり前の小さな楽しさを大切にしながらコロナや熱中症に負けず良い２学期にしていきたいという願いを込めてお話ししました。

東門についにカーブミラーの完成！！

校長として 4 月に着任した際、気づいたことの一つに登下校時の時間に路上駐車が多いこと、そして東門の出入り口が、道路を挟んで国立リハの出入り口があることから、路上に駐車しているトラックや乗用車があるとセンターラインをオーバーして走ってくる車が、車の後方から急に飛び出して見える。左右の道路確認並びに自転車、前方の出入り口から出入りする車、さらに通学する生徒の歩道など多方面に注意を払って出入りする危険を感じてミラーの取り付けを依頼しました。手配をしてみると多方面の協力が必要なことがわかり、夏休みまで多くの時間・多くの方々の協力をいただきました。行政では、所沢市教育委員会、施設課、道路維持課、所沢警察交通課、美原中学校後援会、PTA,おやじの会の方々には、手配並びに費用面等、大変お世話になりました。おかげさまでカーブミラー1 セットが東門のところに大変立派なものができました。これでさらに安全性が増し、事故のない学校環境になってくれればと願っています。本当にありがとうございました。

校長見聞録

７月の後半から８月にかけて開催された県大会、吹奏楽コンクール・朝日合唱コンクール等各大会等には、時間の許す限り応援に向かった。深谷の陸上競技場・ドーム・上尾の武道場・ウェスタ川越・所沢ミューズ他、各会場で大変暑い中展開されたが、コロナの関係で保護者は、もとより校長である私も入場制限がかかり、深谷・上尾やその他の会場に行っても入場できない。順番を外で待って待機している生徒の顔を少ししか見られないこともあった。競技全体が見られなかったのが残念だった。しかし、垣間見る生徒の姿は少ししか見られなかったが、生徒たちの元気な姿や緊張しながらも真剣に試合に臨む姿は、勝敗にかかわらず美しい。また県大会やそれに出場できずに引退した生徒たちにもきっと様々なことがあったと思うが、この経験を今後の生活に前向きに生かしてほしい。それが本来の目的だから。